

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	国立台湾大学文学院日本語文学科 中国語の HP http://www.japan.ntu.edu.tw/news.htm 日本語 HP http://homepage.ntu.edu.tw/~japanese/ja/j-ver/j-intro.htm
調査日時	1. 2009 年 12 月 22 日（火）午前 10 時より午後 2 時 学科長室 午後 6 時より午後 9 時 懇親会 2. 12 月 24 日（木）午後 3 時より 6 時 台湾大学の林立萍副教授及び黄鈺涵助理教授の授業時に、特別講義を行った。
調査対象機関・学科・個人名	国立台湾大学文学院日本語文学科の先生方 5 名 1.徐興慶(教授、学科主任)： 中日交流史、日本近現代思想史、日本文化史 2.陳明姿(教授)：日本平安時代文學、中(台)日比較文學、 日本近現代文學 3.黄鴻信(副教授)：日本語言語學、社會言語學 4.林立萍(副教授)：日語語彙 5. 黄鈺涵(助理教授)：日本語教育学
訪問目的	1. 台湾大学における日本語教育・日本学研究の実態調査 2. 台湾大学日本語学科・大学院における特別講義の提供
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 1. 歴史 元来は、文学部外国語文学科に属して日本語教育を行っていたが、1994 年 8 月に日本語学科として独立、台湾における国立大学初の日本語学科の設立となった。 2. 教学目标及び学術活動 台湾国内各大学の日本語学科・研究科との協力の下、全国的な学会

組織を作り、定期的にゼミを行っている他、日本から著名な学者をお招きして講演会を開いている。これに加えて、日本の国立大学や有名私立大学とも学術提携をし、交換留学生を派遣するなど、学生の日本語能力の向上を図っている。また、日本語学・日本文学方面における学術研究人材の育成を目指して、2003 年度より大学院修士課程の日本語文学研究科が設立されている。

【日本にかかわるコース概要・開講科目について】

- 1.台湾大学日本語学科では、1 クラス 50 名程度で、1 年から 4 年まで合わせて 230 名ほど在籍している。
2. 台湾大学日本語学科では、日本研究者養成をも、その教育目標に掲げている。1,2 年生は基礎語学の授業を中心にし、3 年生以上は専門科目「言語学」「文学」「文化（宗教、文化史、現代文化、風俗など）」の分野に分かれる。
3. 1 年次の 1 週当たりの日本語学習時間は 10 時間（1 時間＝50 分）で、文法 4、会話 4、作文 2 時間である。2 年次は文法 3、中級読解 2、作文 2、会話 3 である。3 年生以降は、上級日本語作文・会話の他に「新聞」「文学精読」「翻訳」「文学史」などの専門科目が開講されている。また、中等教育における日本語教育に興味をもつ学生向けに、日本語教育の授業も開講されている。
- 4.日本語を第 2 外国語として学んでいる学生は 3,000 人以上いて、1 週当たり 3 時間程度の日本語の授業を履修している。

【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】

初級の日本語の教科書は、『みんなの日本語』を用いているが、台湾にいる学生たちには、台湾社会にねざした日本語の教科書が望ましい、というのが課題である。

【上記のコース・科目にかかわる教員について】

- ・陳明姿(教授)：日本平安時代文学、中(台)日比較文学、日本近現代文学
- ・謝豊地正枝(教授)：日語修辭學、日語句法學、認知言語學、意義論、中日比較言語學
- ・徐興慶(教授)：中日交流史、日本近現代思想史、日本文化史

	・ 太田 登（教授）：日本近代文学 ・ 黄鴻信(副教授)：日本語学、社会言語学 ・ 林慧君(副教授)：日本語学、日本語形態論 ・ 朱秋而(副教授)：中日詩歌比較 ・ 林立萍(副教授)：日本語の語彙 ・ 范淑文(副教授)：日本近代文學(夏目漱石研究) ・ 曹景惠(助理教授)：日本中世文學、中日比較文學 ・ 黄鈺涵(助理教授)：日本語教育 ・ 篠原信行(講師)：日本文化(哲學)、日本語教育 ・ 服部美貴（講師）：日本語教育 【留学】 ・ 日本の交流協定大学へ、毎年20名程度交換留学で留学している。日本の交流協定大学は、同志社大学、国際教養大学、北海道大学、関西大学、慶応大学、京都大学、九州大学、明治大学、お茶の水大学、琉球大学、創価大学、東北大学、東京大学、東京外国語大学、東京学芸大学、早稲田大学、名古屋大学、岡山大学、大阪大学、筑波大学、神戸大学、千葉大学等の22大学。 ・ 交換留学の選抜試験は、毎年11月頃に、台湾大学国際交流センターが統一試験を実施して選考する。試験問題は小論文で、テーマは英語・スペイン語・フランス語・日本語とも同じテーマで行う。試験時間は100分間。 ・ 留学の奨学金については、財団法人交流協会（実質的には、日本の対台湾大使館に相当する）の奨学金を申請する学生が多い。 ・ 大学として、留学に期待することとしては、日本の実社会・文化を体験すること、日本語会話力の向上である。 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 本学科の卒業生たちは、学術的教育研究のほか、日本語教育・翻訳などにも従事している。更に、在学中に法律・政治・貿易・経済・企業管理・会計・金融などの科目の履修者は、外交・国際関係・国際貿易方面などでも活躍している。
--	--

備考	【東京外国語大学との関係（外語大卒業生の有無など）】 1. 東京外国語大学とは 1999 年より交流協定があり、毎年 2 名の学生を派遣している。 2. 集中講義・特別講演で望月圭子が訪問している。 3. 毎年、台湾大学出身の交流協会奨学生が東京外国語大学に研究生として入学し、博士前期課程に進むことが多い。 4. 東京外国語大学修士課程修了の張鈞竹先生が、非常勤講師として台湾大学の日本語教育に従事している。
----	---

調査担当者： 望月 圭子

1.台湾大学大学院日本語学ゼミに参加



2 台湾大学椰子の木大通りにて院生と
奥が 24 時間開館の総合図書館



3. 懇親会の席上にて。右より林立萍副教授、陳明姿教授



4. 黄钰涵助理教授の授業を使って特別講義



5. 日本語の授業休憩中の風景



国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	台湾 東呉大学 日本語学科
調査日時	2009 年 12 月 23 日(水)午後 12 時より午後 4 時まで
調査対象機関・学科・個人名	東呉大学 日本語学科 学部・大学院 http://www.scu.edu.tw/japanese/ 林雪星学科主任、 賴錦雀教授
訪問目的	東呉大学日本語学科における学部及び大学院についての聞き取り調査
調査方法	項目に従ったインタビュー、写真
調査結果	【機関の性格】 1972 年に東呉大学外国語文学科で日本語教育が始められたのが前身である。1975 年に、東方言語学科として独立し、1975 年に夜間部が増設された。 1980 年に修士課程の前身である日本文化研究所を設立し、日本語学系となった。その後、当時の蔡茂豊教授（現客員教授）の尽力のもと、外国語文学院が設置され、外国語文学院の一つの学科として、日本語文学系となった。 1991 年に博士後期課程が設立され、日本語学・日本語教育の分野では、台湾では唯一の博士後期課程設置の機関となった。 2000 年に夜間部は昼間部に改組され、2001 年に修士課程社会人入学制度が始まった。 現在、学部学生は、17 クラスあり、学生数は約 1,133 人、修士課程・博士課程の大学院生は 107 人在籍している。 台湾で最も歴史が古く、名実ともに、日本語教育・日本研究に卓越した実績を挙げている大学で、国立台湾大学日本語学科主任徐興慶教授も、国立政治大学日本語学科主任蘇文郎教授、外国語学院院长于乃明教授も、東呉大学出身である。 また、日本語学・日本語教育を重視したカリキュラムが特徴で、博士課程も、日本語学・日本語教育についての研究者を養成している。

【日本にかかわるコース概要・開講科目について】

1. 学部：

一年次・二年次のカリキュラムは、集中的な日本語の基礎教育を行っている。

三年次・四年次は、日本語の基礎教育を継続して行うほか、実用日本語の能力の養成を重視している。例えば、現代日本事情、日本語情報処理、新聞日本語、通訳、翻訳実務、ビジネス英語等の授業を開講し、卒業生が多方面の職種に対応できるようにしている。

また、大学院進学を希望する学生のために、日本の小説、名著講読、研究方法指導、日本語学、言語学概論、日本語教授法、日本語研究等の授業を開講している。

2. 修士課程

修士課程は、「日本語学研究」「日本文学研究」「日本文化研究」「日本語教育学研究」の四つのコースに分かれている。主専攻と副専攻を選ぶことができる。

2.1 修士課程一年次

修士課程一年次では、一般言語学の基本概念の教育を重視し、特に、日本語の発音、文字、語彙、文法、談話、敬語、方言等の多方面にわたる教育を重視している。日本語教育の分野では、日本語教授法、日本語習得理論の教育を行い、ゼミナール方式の授業を重視している。

文学研究においては、文学作品の分析、観賞、論文資料の引用方法、書道、文学理論の導入の教育を行っている。

2.2 修士課程二年次

修士課程二年次では、応用言語学についての授業、例えば、言語分析、対照研究、言語資料収集、コーパス処理、言語の原則と規則性の研究といった授業を開講している。

3. 博士課程

博士課程では、日本語学・日本語教育学の専門家・研究者養成を行っている。「日本語音韻論研究」「日本語語彙論研究」「日本語教授法研究」「日本語教材研究」「日本語教育史研究」「中国語と日本語の対照研究」等の授業を開講している。

【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】

1. 独自教材の出版

試用版として独自教材を編集している。

『一緒に読解 SCU 初級』東呉大学日本語学科編、至良出版社 450 元

東呉大学日本語文学系 編集班

林雪星、陳淑娟、賴錦雀、朱廣興、盧月珠、李翠芳、蘇克保、
陳世娟、李宗

各課は、東呉大学の学生生活にねざした題材が扱われており、
東呉大学近隣の地理、台湾に来た日本人との会話等の内容が盛り込まれ
おり、東呉大学の学生にとっては、興味深い内容となっている。

2. 日本語学習者コーパスの収集・公開

Language Acquisition Research Project(LARP)を3年半にわたり行い、現
在、以下のサイトで公開している。

<http://www.larpatscu.org/>

プロジェクト内容は、2003 年 9 月入学の東呉大学日本語学科学生 37 名が、
卒業するまでの3年半の間に毎月収集された作文・話し言葉の日本語学習者
コーパス構築と、日本語学習者の言語習得プロセス研究で、作文初稿、フォ
ローアップインタビュー、修正された日本語作文のデータを含んでいる。研
究目的であれば、資料を頂くことができる。

3. 使用している教科書

独自に出版した教科書以外に、以下の教科書を使用している。

『日本語中級読解入門』

日本語教育・教師協会(Jaltta)編、大新書局。

『日本語上級読解入門』 柿倉侑子・鈴木理子他編、大新書局。

『新文化日本語 初級1』 文化外国語専門学校。

『輕鬆聽日語 Enjoy Listening to Japanese』文化外国語専門学校。

『基礎・日語語法』 林錦川 編著、文笙書局。

4. 留学の奨励

学部学生に関しては、拓殖大学、同志社大学、明海大学への交換留学制
度があり、単位互換を行っており、4 年で卒業可能なシステムを作っている。

	2 年生・3 年生を毎年 20 名程度派遣している。 また、拓殖大学の夏期日本語プログラムにも派遣している。 修士課程の学生に関しては、 ・宮崎大学教育文化学部、 ・名古屋大学国際言語文化研究科・文学部 ・学習院大学文学部・商学部 ・新潟大学現代社会文化研究科・国際交流センター へ派遣制度がある。 特に、宮崎大学とは、修士号のダブルディグリー制度で連携しており、2 年間の修士課程のうち、1 年間は宮崎大学に留学するシステムがある。但し、修士号授与の審査は、home university である東呉大学で行う。 留学は、ほぼ自費留学であることが多いが、留学の成果として、会話力が向上し、学生たちも非常に満足している。 東京外国語大学へは、交流協会の奨学生として、日本語学・日本語教育の博士号取得を目的に応募することが多い。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 専任教員 28 名、兼任教師 59 名によってコースが運営されている。 教授・副教授の氏名、専門領域は以下のとおり。他に、8 名の助理教授、8 名の講師が専任教員として在籍している。教員は、ほぼ、東呉大学の卒業生である。 <教授> ・蔡茂豊（客員教授）：日本語学、日本語教育 ・林錦川：日本語文法、日本語学 ・陳淑娟：日本語教育学、日本語習得理論、 ・頼錦雀：日本語学、日本語教育学 ・林文賢：記号学、言語学、日本語教授法、e-learning ・朱廣興：言語学、社会言語学、中日対照言語学 <副教授> ・林雪星：日本近現代文学、日本女性作家研究 ・王世和：日本語表現学 ・盧月珠：日本語学、日本文化 ・羅濟立：漢字音韻学、日本語学 ・許夏珮：日本語教育、第二言語習得理論 ・劉怡伶：日本語学、コーパス言語学
--	---

	【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 学部卒業生は、日系企業、通訳、翻訳の業種につくことが多い。 修士修了の場合は、各大学の夜間の市民講座の性質の日本語講座の教員、博士修了の場合は、各大学の日本語学科の専任教員になる。 【まとめ】 日本語学・日本語教育学においては、台湾で最も卓越した教授陣を擁する機関である印象は、非常に強い。また、日本語学・日本語教育学分野での大学院教育においても、充実したカリキュラムを備えている。 大学院生と交流する機会を2時間ほど頂いたが、東京外国語大学に期待する点として以下の点が挙げられた。 1. 中日対照の語彙・表現リスト 中国語では使えるが、日本語では同形語として存在するが、意味的・表現的に良くない意味を表す場合の、語彙リスト又は辞書がほしい。 また、中国語ではよく使う表現でも、日本語には対応する表現がないような例、例えば、＜提醒我＞(忘れないように、注意喚起を依頼するような場合によく使われる中国語表現) のリストも欲しい。 教材として、中国語と日本語の対照的視点による文法説明や、誤用例を扱った副教材、日本のマナーを重視した教材、日本の行事を盛り込んだ教材、接客日本語、初対面のミニトークを扱った教材がほしいという意見が活発に提出された。
備考	【東京外国語大学との関係】 東呉大学の卒業生は、ほぼ毎年交流協会奨学生として、東京外国語大学に留学し、東京外国語大学で博士号を取得した者も多い。 【連絡先】 頼錦雀教授

調査担当者： 望月 圭子

東呉大学カフェテリアでの交流会：右より頼錦雀教授、林雪星副教授。



国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	台湾国立政治大学
調査日時	2009 年 12 月 28 日（月）14:00~15:30
調査対象機関・学科・個人名	台湾国立政治大学 外国語文学院 日本語文学系 http://units.nccu.edu.tw/server/publichtm/ut/html/w506/cw506.html 学科主任 蘇 文朗教授
訪問目的	台湾国立政治大学 外国語文学院における日本語・日本学の教育研究についての聞き取り調査のため
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 アジア言語学科日本語組が本学科の前身であるが、台湾の国立大学に日本語学科が設立される気運にともない、1989年に独立した日本語学科となった。2003年に大学院修士課程を設立した。 東京外国語大学は、1996年10月、日本の国立大学として初めて、正式な国交がない台湾の大学と交流協定を締結したが、その初めての大学が、台湾国立政治大学である。そのきっかけは、当時国立政治大学日本語文学科教授であった趙順文教授（後に台湾大学へ移籍、現在開南大学教授）が、母校である東京外国語大学で初めての論文博士号を授与されたことがきっかけであった。当時の東京外国語大学学長中嶋嶺雄元学長（現国際教養大学学長）が、日本の国立大学と台湾の大学間の交流協定締結のために尽力し、二年間かけて日本政府と交渉した成果で、以降、日本の国立大学と台湾の大学との交流協定締結が促進された。 【課程の概要・学部コースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 1. 主専攻としての日本語学科の学生 一学年40名。男女比率が、男性2割、女性8割と女性が多い。 学生たちは、「日本語への深い興味」が動機で入学してくる。 2. 副専攻語としてのカリキュラム（「拡大輔系」と呼ばれる） 250名程度履修している。

	3. 政治大学独自の教材を出版 例えば、 ・ 吉田妙子教授『たのしい日本語』大新書局。2004. ・ 黄錦容教授 『高級日本語読本』金華科技。2003. 4. ダブルメジャーの推進 日本語力の強化とともに、ダブルメジャーを推進し、学生の 60%程度が 70 学位から好きな副専攻を選び、5 年から 6 年かけて、主専攻と副専攻の両方の学位コースを選んでいる。 5. 大学間の単位互換カリキュラム 翻訳のカリキュラムは、輔仁大学と連携して行っている。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 専任教授兼外語學院院長 ・ 于乃明：日本歴史、日本近代史、中日外交史 〈教授〉 ・ 蘇文郎：（学科主任） 日本語学 ・ 傅琪貽：中日文化交流史、日台關係史、少數族群史 ・ 吉田妙子：日語語法、西洋哲學 〈専任特聘教授〉 ・ 黄錦容：日本近代文學、女性主義文學 〈専任副教授〉 ・ 小林幸夫：日本思想史、日本文化史 ・ 蔡瓊芳：日本語の敬語 ・ 徐翔生：日本思想、日本宗教 〈専任講師〉 ・ 孫克蔭：新聞日本語、日本語翻訳 〈専任助理教授〉 ・ 鄭家瑜：日本古典文學 ・ 王淑琴：日本語学 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 1. 3 割が、大学院へ進学するか、日本へ留学している。 2. 7 割が、日系企業、外務省（外交部と呼ばれる）、出版社等に就職する。 【大学院修士課程】
--	--

	2009年に「当代日本研究中心」という複数の学科にまたがる修士課程を設立した。この修士課程では、日本の政治・経済・法律・外交・社会・民俗学・防衛・日中関係・不動産・企業管理等を学ぶことができるように、現在、カリキュラムの調整中で、近い将来、独立大学院として機能させたい。 今後の課題として、 1. 日本の語学力をどのように日本研究の中に位置づけるのか 2. 学部・修士一貫制を導入して、現在3年の修士課程を短縮するという二点が挙げられる。 【東京外国語大学への要望】 東京外国語大学とは、交流協定を結んだ最初の日本の国立大学であり、ご縁も深い。毎年日本語学科からは、二名の交換留学生を送っているが、大学院レベルでも交流をすすめていきたい。
備考	【東京外国語大学との関係（外語大卒業生の有無など）】 1. 趙順文元政治大学教授（後に台湾大学へ移籍、現在開南大学教授）が、母校である東京外国語大学で初めての論文博士号を授与された。 2. 蔡瓊芳副教授が本学で修士の学位を取得した。 【連絡先】 蘇 文郎教授

調査担当者： 望月圭子